

平成30年度 授業改善推進プラン

年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 身近なことや経験したことを題材にし、相手に分かるように話す。 鉛筆の正しい持ち方、正しい字形、筆順を身に付ける。 様々な文章を読むことで、正しい助詞の使い方を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 「声のものさし」を掲示し、その場に応じた声の大きさを意識できるようにする。また、話を聞いて質問や感想を述べる機会を作り、思いや考えを伝える喜びを感じさせる。 毎時間、視聴覚教材を活用して正しい鉛筆の持ち方を指導する。正しい字形や筆順は最初の場面で指導する。また、家庭学習で取り組ませることで正しい字形や筆順の定着を図る。 文章を読み返す活動を継続的に取り入れ、自ら間違いに気付き、直す活動に取り組む。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算の仕方を理解し、正確に計算できるようにする。 文章題の題意を的確につかみ、正しく立式する。 	<ul style="list-style-type: none"> 10の合成・分解を繰り返し練習させたり、視聴覚教材で具体的な操作を提示したりする。また、ブロックを操作したり、図に描き表したりすることで計算の仕方を理解させる。 数の関係を図や言葉で表す。また、考えた式を電子黒板に映す等の方法で共有し、互いの考えを深める機会を設定する。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然に目を向け、自然の物を使って工夫して遊ぶ。 活動や体験を言葉や絵で表現し、それらを互いに交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の不思議さや面白さを体験できる活動を充実させ、科学的な見方や考え方の基礎を養う。 気付いたことや見付けたことを伝え合う活動を、計画的に取り入れる。また電子黒板等で児童の考えを提示し、互いの気付きや考えを共有させる。観察カードなどの掲示も行い、互いの良さを広める。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 友達と関わりながら、音楽活動に楽しく取り組む。 繰り返し練習し、鍵盤ハーモニカの基本的な奏法を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> リズム活動、身体表現の活動を充実させて、音を聞き合いながら活動させる。友達にどのように声掛けするとよいか、話型を示す。 個別指導を中心に、手の形、指番号を覚えさせ、音楽の流れにのって演奏することができるようにする。 	
図工	<ul style="list-style-type: none"> 描いたり作ったりする活動を通して、意欲的に活動する。 基本的な道具（のり・はさみ・クレパス）の使い方を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の興味関心に応じた題材を精選し、順序良く造形活動ができるようにする。 道具の使い方が身に付く課題を用意し、基礎基本の定着を図る。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 種々の運動の特性を踏まえ、特性に応じた技能を身に付ける。 自ら学習を振り返り、次のめあてを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> スモールステップで学習計画を立てる。また、タブレット端末の録画機能で自分の動きを確認させるなど、ICT機器を効果的に活用する。 「めあて→取り組み→振り返り」という学習サイクルをつくり、主体的に運動する学習過程を成立させる。 	

年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 正しい漢字を習得し、文章作りなどで、既習漢字を適切に活用する。 接続語を理解し、文章の順序や区切れに気付くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文指導やノート指導の際、漢字ドリルや掲示物を活用し、既習漢字の読み方や使い方を想起させる。 漢字練習ノートに書き取る学習や、ヒントカードやクイズ形式の問題を提示し、正しい漢字を習得させる。 作文活動では、微音読で読み返す活動を取り入れる。 友達同士で読み合い、感想を伝え合う活動を取り入れ、友達の文章のつながりの良いところに気付けるようにする。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 長さの単位（mm, cm）及びかさの単位（ml, dl, l）の単位換算を理解する。 身の周りのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり、比べたりする。 学習場面から見出した問題を、具体物、図、数、式などを用いて解決し、すすんで立式し問題解決をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に長さや量の目盛りを読むことを奨励したり、長さや量を測ったり、直線を引いたりする活動に取り組みさせる。 単位換算の理解が難しい児童には、絵カードや単位のいくつ分という量をもとに考えさせる。 一つの解決方法だけでなく、様々な解決方法を出させ、結果が正しいかどうかを検討するように促す。 東京ベーシックドリルを前学年に遡って取り組み、学習内容を想起させ、基礎・基本的な学力の定着を図る。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の価値項目と生活科の内容をカリキュラムマネジメントし、関連的に取り扱う。（町探検一勤労公共の精神、おもちゃづくりー伝統と文化の尊重、自分自身の成長家族愛、生命尊重等） 国語科とカリキュラムマネジメントを行い、国語科で習った接続詞や文章構成を用いて文章を書く活動を行う。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。 伴奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する。 鍵盤ハーモニカを、タンキングで息の使い方気を付けて吹く。 	<ul style="list-style-type: none"> 交互唱を取り入れて、互いの声を聴き、自然で無理のない声で歌えるようにする。 友達の表情や声の感じをまねて、様々な表現方法を体験させる。 ペア学習で、階名唱を行う。 「トゥ」の口で発音して歌った後、鍵盤ハーモニカで吹くようにする。 	
図工	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な道具（のり・はさみ・クレパス・水彩絵の具・カッター）の使い方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材設定時に、使用する道具や材料の目的やねらいをはっきりとさせ、スモールステップで取り扱いを身に付けられるよう展開を考える。 発達段階や能力に応じた個別の声掛けをし、個々の基礎基本の定着を図る。 掲示物や電子黒板を活用して視覚的にも分かりやすい工夫をする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ボールなどの用具を巧みに操作する力を身に付ける。 めあてを理解し、場の安全に気を付けて、すすんで運動する。 規則を守り、誰とでもなかよく、勝敗を受け入れたりして運動する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体づくりの運動の中で投力を鍛える動きを取り入れる。 めあてや規則を視覚化し、誰でも理解できる提示を工夫する。 	

年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 正しい漢字を書く。 文の構成に対して苦手意識を軽減し、考えながら書く。 話し手の顔を見ながら聞いたり、意図を考えたりしながら最後まで聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジタイム等の時間を活用し、毎週1回以上の小テストを実施して、繰り返し書く時間を確保する。 まず、文章を書くことへの抵抗を減らすために、体験したことを短い作文で表現することを繰り返す。定期的に「始め・中・終わり」の構成を考えさせて文章を書く時間を設定する。 話を聞く態度を都度指導しながら、話の中心、大事なことを解説して、考えながら聞けるようにしていく。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> グラフや表から必要な情報を読み取る。 調べたことを新聞やパンフレットに分かりやすくまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み取る内容をはっきりさせ、発表の際には表やグラフのどこに根拠があるのかを示しながら説明する。 新聞やパンフレットのひな形を用意し、基本的なまとめ方を身に付けさせる。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 加減乗除の筆算の手順通りに計算する。 四角形や平行、垂直の定義を知り、コンパスを用いて正しく作図する。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットドリルを活用し、何度も繰り返し問題を解かせる。 チャレンジタイムで、「四角形を調べよう」の内容に繰り返し取り組み、定着を図る。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 興味関心に応じた話題を取り上げ、様々な分野について意欲をもって取り組む。 分担や役割を明確にし、グループで協力して実験や観察を行う。 既習事項を確実に身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元導入時、単元全体の見通しをもたせ、主体的に学習問題を設定し、解決したいという意欲をもたせる。 実験や観察の前に、方法やグループ全員の役割、順番等を確認する時間を設定し、確実に全員が問題解決の方法を共通理解できるようにする。 小テストを行い定着度を確認し、定着度の低かった事項については繰り返し指導する。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーの学習では、やさしい息遣いやタンギングをして、きれいな音色で演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーのきれいな音、悪い音、それぞれの吹き方の違いを理解させる活動を行う。また、個別指導で演奏技術を確認し、基本的な奏法を身に付けさせる。 	
図工	<ul style="list-style-type: none"> 水彩絵の具で着色する時に、意図して水加減の調節を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 水彩絵の具を使う際には毎回水の加減の仕方や雑巾の使い方を確認する。道具の確認を行う。机間指導で個別に声掛けをし、意識付けと技能の定着を図る。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 「投げる力」を伸ばすため、補助運動でボールの操作や道具の使い方慣れ、特性に応じた運動をする。 ゲームの結果をもとにチームの課題や特徴を考え作戦を立てる。 勝敗に対する公平な態度を身に付け、ゲームの結果を受け入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ボールや道具の正しい操作の仕方を指導するとともに、運動量を確保し、技能を習得する時間を設ける。 ゲームごとに作戦を立てたり、振り返ったりする時間を確保する。 仲間と運動する楽しさや相手がいることを意識し、他者を尊重する心を育む。 	

年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 既習の漢字を正しく書く。 文の構成を考え、まとまりのある文章を書く。 大事なことを落とさずに聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字については体を使って一画ずつ確認するなどして、画数を意識させる。 経験したことを短い作文に表す時間を計画的に設定し、「はじめ」「中」「おわり」で書く。 分からないことを質問できるような支持的学級風土を醸成し、大事なことが何か確かめられるようにする。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> グラフや表を用いて、学習したことを新聞やパンフレットに効果的にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み取る視点を明確にし、発表の時に表やグラフを使って根拠を示しながら説明させる。また、学習内容を自分の言葉でまとめる。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> わり算の筆算を手順を知り、正しく計算する。 平行や垂直の定義を知り、三角定規やコンパスを用いて正しく作図する。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットドリルに繰り返し取り組ませ、筆算を正確にできるようにする。 チャレンジタイムで定期的、計画的に復習する時間を設定し、個別指導しながら正しく作図できるようにする。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 分担や役割を明確にし、グループで協力して実験や観察を行う。 既習事項を確実に身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験の方法をグループで話し合い、役割を分担させ、協力することのよさを実感させる。 計画的に小テストを行って定着度を確認、繰り返し同じ内容の小テストをしたり、個別指導したりして確実な定着を図る。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 息遣いや口の開け方に気を付けて歌い、自然な発声で仲間と調和する歌声で歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 高音部の発声で口を大きく開けて響きのある歌声を目指して歌ったり、友達と歌声を聴き合ったりして、音の重なりを聴き合って合唱する。 	
図工	<ul style="list-style-type: none"> 発想を広げて自分の思いを形にする意欲を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材設定時につくるものの一定の枠組みを設ける。そこに自分だけの発想を付け加えていくという展開にすることで、ゼロから発想をするというハードルを取り払い、少しずつ発想を広げる楽しさを感じられるようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 補助運動で、ボールを操作したり道具を使う時間を確保し、運動を楽しむ。 ゲームの結果をもとにチームの課題や特徴を考え作戦を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ボールや道具の正しい操作の仕方を友達と相談しながら運動する時間を確保して、楽しみながら運動する。 タブレット端末を使って、自分たちの動きを見たり、手本の動きを見たりできるようにする。また、作戦ボードなどを活用し、作戦の内容を視覚的に取り入れるようにする。 	

年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文や物語文の、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える。 ・資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫する。 ・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。 ・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形式段落で要点をまとめる時の手順やその際の留意点を提示し、描写や主人公の心情を考えさせる。また、ICT機器を活用し、本文全体を提示して描写や文書の構成を視覚的に捉えさせる。 ・児童の身近な状態や諸行事を活用して、短文を作る経験を積み重ねることを通して、構成を考えるようにする。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・白地図用紙やフラッシュカードを活用し都道府県の名前を覚える。また、ゲームやクイズ形式にして都道府県についての興味関心をもたせる。 ・表やグラフから読み取れる経験を積み重ね、それを自分の考えとして根拠をもってまとめることができるようにする。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・商積和差の正しい計算の仕方を身に付け、数の位に注意して正しく計算する。 ・量やもののかさの単位を正しく理解し、単位換算することができる。 ・三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の公式を理解し、適用し、問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時のねらい、課題、問題を厳選し、ICT機器を活用して視覚的に捉える。また、タブレットドリルや東京ベーシックドリルを活用して既習事項を復習する。 ・既習事項を活用して計算の仕方を考えたり、課題解決に取り組みせたりする。また、その考えを用いて少人数で話し合う。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験で使う用具の名称や使用の留意点を知り、正しく実験をする。 ・条件制御を適切に行い、実験をするとともに、因果関係を見つけ、考察する。 ・経験や既習事項から予想や仮説を基に、解決の方法を見出す力を身に着ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験の準備では、条件制御を明確にして取り組む。観察や実験の過程から結果を出し、正しい知識との整合性を確かめ、科学的な思考につなげる。 ・毎単元で原因と結果、結果と考察を区別し、まとめさせる。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を感じ取り、思いをもって歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容から自分の経験等を思い起こして歌えるよう、ワークシート等工夫したり、楽譜に書き込みをしたりして歌唱活動に取り組む。 	
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・自信を持って自分の表現したいことに取り組む。 ・自分の表現したいことに合わせて技法を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の時間を設け、表現は優劣ではなく異なる世界観の現れであることを知る。 ・自ら技法を選べる題材設定を行うことと、失敗してもやり直しができる材料や道具を用意し、失敗とチャレンジの経験を積む。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活や体験を想起し、身近な家庭生活の状態を知る。 ・調理や裁縫の基本的な操作や方法を身に付け、家庭生活で活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題提示では児童の生活経験を題材にし、主体性を養わせる。 ・児童の実態を把握し、それに即した課題を提示する。また、ICT機器を活用し、基本的な技能を視覚的に捉えさせ、児童全員に確実に身に付ける。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・技の特性をつかみ、練習の場を工夫して運動する。 ・運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技能を身に付ける。 ・約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたりし、適切に運動をする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を用いて、学習の流れや技の特性などを視覚的に捉えさせたり、動画記録から技の到達度を児童が把握できたりできるようにし、積極的に運動に取り組めるようにする。 	

年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 段落相互の関係や登場人物と情景を照らし合わせて読み取る。 感情表現を表す言葉を用いて、起承転結の整った文章を書く。 既習漢字を確実に定着する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章構成図を用いて学習したり、叙述をもとに登場人物の心情を考えさせたりする学習に取り組む。 作文用紙に書く前に、イメージマップを用いて事象と自分の気持ちを書きだす作業を設け、「はじめ・中・終わり」で文章を書く。 チャレンジタイムで読み・書きの反復練習を行い、定期的に漢字小テストを実施し、習熟を図る。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料から読み取ったことを関連付けて考える。 既習事項を確実に定着する。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み取る視点を明確にして資料を読み取り、それらを電子黒板に提示し、比較して考えをまとめる学習活動を適宜取り入れる。 既習事項の確実な定着のために、チャレンジタイムでベーシックドリルに取り組む。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 公式や計算の仕方を理解し、文章問題を正しく立式して解く。 様々な解決方法があることに気付き、その都度速く正確にできる方法を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジタイムで既習事項を復習したり、少人数算数で習熟度別の学習体制を整備し、個々の習熟度を把握する。 課題に対する様々な解決方法を紹介し、それぞれを比較し、利点などを確認する学習に取り組む。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果を正確に書くことができる。結果をもとに分かったこと（考察）を自分の言葉で書き表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果と考察を書く時間を十分に確保する。また結果と考察を別々に板書することで、表現の違いに気付くよう指導する。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーや鍵盤ハーモニカの演奏では、息遣いに気を付けて、きれいな音で演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導や友達の音を聴き合う活動を通して、音を聴きながら演奏し、音楽の拍の流れを感じながら演奏する。 	
図工	<ul style="list-style-type: none"> テーマに合わせて表現技法や、道具・材料の使い方を工夫できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童にとって身近でつくるもののイメージを持ちやすく、かつ広い表現の幅を受け入れられる題材を設定する。 個々のつくりたいイメージを把握し、制作中に細目に声掛けを行い支援する。道具の使い方以外の制作方法については任せる。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活に興味関心を持ち、主体的に学習する。 自分の家庭生活と併せて考えたり話し合ったりすることを通して、実践に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の状況や様子について学年便りで知らせる。また、学習や実習後に「リトライカード」や「お手伝いカード」を配布し、継続して活動できる機会を設ける。 ICT機器を活用して、器具の使い方や作業の仕方などを視覚的に捉えさせ、自主的・自発的に活動できるようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ゲームの結果をもとにチームの課題や特徴を考え作戦を立てる。 チームの学習では、認め合ったり、励まし合ったりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲームごとに作戦を立てる、振り返りをする時間を確保する。また、タブレットを使って、自分たちの動きを見たり、手本の動きを見たりできるようにする。 学習のふり返りの時間でよい動きを紹介し、見るポイントや声かけの具体例を示す。 	